



Music Dialogue ディスカバリー・シリーズ Vol.4

録画セッション@加賀町ホール

2020年3月6日(金) 18:30 開始

プログラム

◆J. ブラームス (1833-1897) : 弦楽四重奏曲 第1番八短調 作品 51-1

J. Brahms: String Quartet No. 1 in C minor, Op.51-1

第1楽章 Allegro

第2楽章 Romanze: Poco adagio

第3楽章 Allegretto molto moderato e comodo

第4楽章 Allegro

アマール弦楽四重奏団 (篠原悠那 北田千尋 中恵菜 笹沼樹)

◆J. ブラームス (1833-1897) : 弦楽五重奏曲 第2番ト長調 作品 111

J. Brahms: String Quintet No. 2 in G major, Op. 111

第1楽章 Allegro non troppo, ma con brio

第2楽章 Adagio

第3楽章 Un poco Allegretto

第4楽章 Vivace ma non troppo presto

アマール弦楽四重奏団 (篠原悠那 北田千尋 中恵菜 笹沼樹)、大山平一郎 (ヴィオラ)

ダイアローグ

[共催] 一般社団法人 Music Dialogue

[協力] 日本音楽財団 (日本財団助成事業)

[認定] 公益社団法人 企業メセナ協議会



演奏者プロフィール

アマビレ弦楽四重奏団 Quartet Amabile [弦楽四重奏]

2016年9月難関で知られる第65回ARDミュンヘン国際音楽コンクール弦楽四重奏部門第3位に入賞、あわせて特別賞(コンクール委嘱作品の最優秀解釈賞)を受賞。19年11月、ニューヨークで行われたヤングコンサートアーティスト国際オーディションで第1位を獲得。21年よりニューヨーク、ワシントンなどでの米国デビューツアーが予定されている。15年桐朋学園大学在籍中の篠原悠那、北田千尋、中恵菜、笹沼樹により結成される。山崎伸子、磯村和英氏に師事。第10回横浜国際音楽コンクール第1位及び全部門グランプリ受賞。第12回ルーマニア国際音楽コンクール第1位。第12回ミュージックアカデミーinみやざき講師特別賞、第26回リゾナーレ室内楽セミナー奨励賞、第37回霧島国際音楽祭賞、堤剛音楽監督賞を受賞。松尾学術振興財団より第26~28回松尾音楽助成・奨励を受ける。マルタ・アルゲリッチ、ダン・タイ・ソン氏らと共演するなど、今後の活躍が期待されているカルテットである。第57回レコード・アカデミー賞現代曲部門を受賞した藤倉大のアルバム「ざわざわ」で福川 伸陽氏とのゆらゆら〜ホルンと弦楽四重奏のための〜がリリースされている。

篠原 悠那 Yuna Shinohara [ヴァイオリン]

第80回日本音楽コンクール第2位、並びに岩谷賞(聴衆賞)受賞。テレビ朝日「題名のない音楽会」、NHK-FM「リサイタル・ノヴァ」出演。フジテレビ系アニメ「四月は君の嘘」ヒロイン役モデルアーティスト。シャネル・ピグマリオン・デイズアーティスト。2016年CD「Estreno(エストレーノ)」をリリースし、デビューリサイタルを行う。桐朋女子高等学校音楽科を首席で卒業、桐朋学園大学ソリスト・ディプロマ・コース(特待生)修了。スイス・国際メニューイン音楽アカデミーを卒業し、現在、桐朋学園大学大学院に在籍。山下金彌、辰巳明子、マキシム・ヴェンゲローフ各氏に師事。室内楽を藤井一興、徳永二男、磯村和英各氏他に師事。プロジェクトQ第10~13章、MMCJ他を受講。ヤマハ音楽支援制度、明治安田クオリティオブライフ文化財団、ロームミュージックファンデーション奨学生。使用楽器は1832年製G.F.プレッセンダex“カール・フレッシュ”(宗次コレクション)。

北田 千尋 Chihiro Kitada [ヴァイオリン]

第7回仙台国際音楽コンクール第4位。第65回全日本学生音楽コンクール全国大会第1位。東京・春・音楽祭、宮崎国際音楽祭、霧島国際音楽祭、別府アルゲリッチ音楽祭等に出演。いしかわミュージックアカデミーIMA奨励賞、ミュージックアカデミーinみやざき優秀賞、霧島国際音楽祭賞。ヴァイオリンを川本義幸、小室瑛子、村上直子、篠崎功子の各氏に師事。室内楽を佐々木亮、銅銀久弥、徳永二男、磯村和英、山崎伸子、練木繁夫、原田幸一郎、池田菊衛の各氏に師事。桐朋学園大学音楽学部を卒業、同大学院修士課程在学中。

中 恵菜 Meguna Naka [ヴィオラ]

21歳でヴィオラに転向。桐朋学園大学音楽学部卒業。ハンス・アイスラー音楽大学ベルリン マスター課程修了。東京・春・音楽祭、宮崎国際音楽祭、北九州国際音楽祭、ヴィオラスペース、他多数出演。第5回次代へ伝えたい名曲 今井信子ヴィオラ・リサイタルにて、今井信子氏と共演。CHANEL Pygmalion Days 室内楽アーティスト。テレビ朝日「題名のない音楽会」に出演。国内オーケストラの客演首席奏者を務める。またオールヒンデミットプログラムのリサイタルを開催するなど、ソロ活動も意欲的に取り組んでいる。これまでに、ヴァイオリンを久保良治、ヴィオラを佐々木亮、ヴァルター・キュスナーの各氏に師事。室内楽を徳永二男、原田幸一郎、磯村和英の各氏に師事。使用楽器は1722年製Domenico Montagnana(宗次コレクション)。

笹沼 樹 Tatsuki Sasanuma [チェロ]

全日本学生音楽コンクール、東京音楽コンクール、日本音楽コンクールをはじめとする国内のコンクールで優勝、入賞後、カルテット・アマビレのメンバーでの国内外の主要コンクールで受賞歴を多数持つ。ソリストとして新日本フィルハーモニー交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団をはじめとするオーケストラと共演。2017 年学習院大学文化活動賞受賞。同校でのリサイタルは天覧公演となり、毎年開催されている。桐朋学園ソリスト・ディプロマ・コース修了。学習院大学文学部ドイツ語圏文化学科、桐朋学園大学音楽学部大学院卒業。堤剛氏に師事。CHANEL Pygmalion Artist。日本コロムビアよりデビューアルバム『親愛の言葉』をリリース。使用楽器は 1771 年製 C.F.Landorfi (宗次コレクション)。

大山 平一郎 Heiichiro Ohyama [ヴィオラ]

米国サンタバーバラ室内管弦楽団・音楽監督兼常任指揮者、シャネル・ピグマリオン・デイズ・室内楽シリーズ アーティスト・ディレクター、Music Dialogue 代表。

英国のギルドホール音楽学校を卒業。1979年にジュリーニ率いるロスアンゼルス交響楽団の首席ヴィオラ奏者に任命され、1987年にプレヴィンから同楽団の副指揮者に任命される。九州交響楽団の常任指揮者、大阪交響楽団の音楽顧問・首席指揮者等を歴任。室内楽の分野では、サンタフェ室内楽音楽祭やラホイヤ・サマーフェスト、ながさき音楽祭などで芸術監督をつとめた。2003年に30年にわたるカリフォルニア大学教授職を終える。2005年に“福岡市文化賞”、2008年に文化庁“芸術祭優秀賞”、2014年にサンタバーバラ市の“文化功労賞”を受賞。

山岸園子 Sonoko Yamagishi [司会]

聖心女子大学文学部歴史社会学科卒業。グロービス経営大学院 (MBA) 修了。株式会社リンクアンドモチベーションにて、人材育成や組織風土改革に関する業務に従事。若年層向け教育サービスを提供する新会社立ち上げを担当した。その後株式会社グロービスに入社し、現在は経営大学院／グロービス・マネジメント・スクールにて、マーケティング・学生募集部門の戦略立案やチームマネジメントを担当している。12歳からヴィオラを始め、現在もアマチュアオーケストラなどで演奏している。

=====
Music Dialogue ディスカバリー・シリーズ 2020-21 Vol.1

2020年5月15日(金) 19:00 開演 (18:30 開場)

【会場】 加賀町ホール (大江戸線牛込柳町駅から徒歩 5 分)

【出演】 石上真由子(ヴァイオリン)、伊東真奈(ヴァイオリン)、中恵菜(ヴィオラ)、
大山平一郎(ヴィオラ)、金子鈴太郎(チェロ)

【曲目】 ヴォーン・ウィリアムズ：幻想五重奏曲
ブルックナー：弦楽五重奏曲 WAB 112

★今後のイベントについては Music Dialogue ウェブサイトをご覧ください！ www.music-dialogue.org

演奏作品について

J. ブラームス (1833-1897) : 弦楽四重奏曲 第 1 番八短調 作品 51-1 (1873 年完成)

ベートーヴェンを敬愛し、古典的な音楽の継承者となることを目指したブラームス。彼が難産の末に完成させた弦楽四重奏第 1 番は、古典派の系譜をとりわけはっきりと示す作品です。弦楽四重奏は作曲家にとって、交響曲と並んで特別な意義を持つジャンルでした。自他共に「ベートーヴェンの後継者」をもって任じていたブラームスには、その重圧はひときわ大きなものでした。弦楽四重奏と交響曲というジャンルは、ベートーヴェンによって開拓され尽くし、完成してしまっただけで考えられていたからです。

ブラームスはこの弦楽四重奏曲を完成させ、自信を持って「第 1 番」と銘打つまでに 20 年にわたる準備期間を要しました。ブラームスは 64 年で幕を閉じる生涯のうち、40 歳という円熟に達するまで弦楽四重奏を世に問うことができなかったのです。本作を完成させるまでに 20 曲以上もの弦楽四重奏を作曲しては破棄した形跡があり、彼のこのジャンルに対する思い入れの大きさを物語っています。

ブラームスは本作の作曲にあたってベートーヴェンの弦楽四重奏曲第 1 番といわゆる「ラズモフスキー弦楽四重奏」から多くを学んでいます。具体的には、ある音型を様々に変形し、発展させて全体を組み立てる「主題労作」と呼ばれるベートーヴェンの手法が徹底されています。ベートーヴェン以外にもシューベルトの弦楽四重奏曲第 12 番《四重奏断章》D703 や弦楽四重奏曲第 14 番「死と乙女」D810 からの影響も指摘されています。ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンという偉人によって連綿と続いてきた古典派の伝統はシューベルトを経てブラームスへと受け継がれ、19 世紀ロマン派の室内楽史に欠くべからざる傑作を生むことになったのです。

第 1 楽章は八部音符の刻みに乗せて緊張感をもって始まります。第 2 楽章は切々とした緩徐楽章。第 3 楽章はシンコペーションやアクセントによって揺らぐ拍感が漂泊するような印象を与えます。第 4 楽章は劇的な総奏で開始され、ブラームス特有の哀切を湛えた音楽が緊密に展開されていきます。

J. ブラームス (1833-1897) : 弦楽五重奏曲 第 2 番ト長調 作品 111 (1890 年作曲)

この弦楽五重奏が作曲された頃、50 代後半を迎えたブラームスは次第に厭世的になり、自身の生涯と創作の終焉を予感し始めていました。本作は彼が培ってきた室内楽の書法を集大成するように作曲されています。

弦楽五重奏の編成はヴィオラを 2 本にする場合とチェロを 2 本にする場合とがありますが、ブラームスは第 1 番も第 2 番もヴィオラ 2 本を選択しています。豊かな内声と重厚な響きを好んだブラームスらしいサウンドの源のひとつです。しかしその結果、本作は充実した内声ゆえの難しさも合わせもつことになりました。第 1 楽章の冒頭でチェロがソロを奏でますが、上に重ねられた 4 人のパートで音量が「フォルテ」と指定されているため、このソロが埋もれてしまうという問題が生じたのです。

初演を担当した弦楽四重奏団から音量のバランスについて疑問が示されると、ブラームスは信頼する友人でヴァイオリンの名手ヨアヒムに助言を求めました。しかし最終的にブラームスは初演者の案もヨアヒムの案も受け入れず、出版にあたって自身の当初案を採用しています。ブラームスらしいサウンド作りとこだわりが端的に表れた聴きどころです。他にも、ブラームスが敬愛したバッハのように対位的な書法を重用したり、本来なら 2 分割するはずのリズムを 3 分割(いわゆるヘミオラ)して拍子の揺らぎを作ったり、度々自作に取り入れてきたハンガリー風の要素が登場したり、と彼の書法が縦横に盛り込まれています。

第 1 楽章は中高音域の弦楽器のさざめきとチェロの力強いソロで始まります。ト短調の中間部を経てト長調に回帰し、伸びやかに終わります。第 2 楽章は寂寥感のある緩徐楽章です。やや激情的な中間部を挟み、一筋の光明を感じさせる二長調で終わります。第 3 楽章は翳りを帯びたメヌエット。第 4 楽章は 5 つのパートが精密に絡み合いながら展開し、ブラームスのヒット作『ハンガリー舞曲集』を思わせる熱狂で幕を閉じます。

(解説: 鉢村 優)

ディスカバリー・シリーズの開催にあたり、こちらの団体・個人様よりご支援頂きました。ここに厚く御礼申し上げます。

日本音楽財団様、小林洋志様、福羽泰紀様、匿名希望 6 名様 (順不同)